

## オンラインマルチメディア英和辞書における画像資料の選択

鈴木, 右文  
九州大学大学院言語文化研究院

<https://doi.org/10.15017/9454>

---

出版情報：言語文化論究. 23, pp.17-25, 2008-02-28. 九州大学大学院言語文化研究院  
バージョン：  
権利関係：

# オンラインマルチメディア英和辞書における画像資料の選択

鈴木 右文

## 1 はじめに

筆者はフリーの英和辞書のマルチメディア化プロジェクトに参画しており、掲載する画像資料の収集を行っている。これを機に、この作業の英語教育の世界における位置づけを改めて認識し、また画像の選択基準に関して研究した内容を論考としてまとめることとした。なお、本稿は平成19年度科学研究費補助金基盤研究（A）「外国語サイバー・ユニバーシティ用マルチメディア辞書開発研究」（研究課題番号18200050）の支援を受けている。

## 2 サイバーユニバーシティプロジェクト

筆者は、国立七大学外国語教育連絡協議会付属の国立七大学外国語 CU 委員会（CU＝サイバー・ユニバーシティ）に、九州大学から参加している委員 2 名のうちの 1 人である。この委員会は、メディア教育開発センターや e-Learning 教育学会の協力のもとに、平成11年度（1999年度）から外国語サイバーユニバーシティプロジェクトを発足させ、現在も展開中である。このプロジェクトの概要はその HP に次のように記載されている。「本プロジェクトは、現代 IT 社会の技術的蓄積を、外国語教育の現場で生かそうとする e-Learning の取組である。プラットフォーム、コンテンツ及びその教授法という三つの開発を柱としつつ、文部科学省学術ネットワークの拠点形成する七つの大学が連携し、膨大な学生数と多用〔筆者注：ママ〕なニーズに対して運用可能な実用的大規模展開を推進している。本プロジェクト最大の特徴は、システムやコンテンツに対してオープン構想を掲げている点にある。一般的に、プラットフォームやコースウェア開発には莫大な資金と技術を必要とするため、各組織の知的財産として囲い込む傾向が強い。しかしながら、本プロジェクトはネットワーク上の公的な責任を果たすべく、その成果を広く全国の教育機関に無償で提供・流布している。情報化社会がもたらすデジタルコンテンツの恩恵は、独り技術を有した者たちの独占物でなく、広く社会全体で共有されるべきであると考え。」（引用部 [http://www.he.tohoku.ac.jp/~sugiura/cu\\_project/koso.htm](http://www.he.tohoku.ac.jp/~sugiura/cu_project/koso.htm), 2007/09/11アクセス）

この立場から、サイバーユニバーシティプロジェクトでは、外国語 e-Learning 用の標準化コンテンツを作成し（標準化コンテンツ構想）、著作権を開放して加工を可能とし（オープンコンテンツ構想）、技術に疎くても使用できる LMS（Learning Management System）を開発して（WebOCM 構想：大阪大学を中心に開発中）、これらのコンテンツと LMS を参加校に開放する（オープン・コンソーシアム構想）ことを目標としている。

サイバーユニバーシティプロジェクトには英語開発部会があり、項目としてリーディング、リスニング、発音矯正、リカレント、英語辞書の 5 つが上がっている。最後の英語辞書が、このプロジェクトで開発中の LMS である WebOCM に組み合わされて使用されることを目的としたオンライン

マルチメディア英和辞書を目下の内容としているのである。そしてこのプロジェクトの遂行のため、前節で言及した科学研究費補助金を申請したのである。

### 3 オンライン辞書マルチメディア化の構想

前節で見たような大規模なプロジェクトの中に、オンライン英和辞書のマルチメディア化は位置づけられている。WebOCM を起動した状態でブラウザ等により文書を閲覧中に、単語を選択するだけでその単語に関する辞書記載情報がポップアップされる仕組みである（このような辞書を scanning dictionary や「ワンタッチ辞書」などと周囲の研究者たちは呼んでいる）。このような辞書の搭載が計画されたのは、コンピュータ端末上で英文を読んでいる際に、必要な語彙の意味を調べようとして紙の辞書を引くのでは、時間もかかるし読解のプロセスを阻害してしまう恐れもあるためである。最近ではコンピュータ上で引く辞書も各種あり、goo や infoseek 上の『EXCEED 英和辞典』（三省堂）や excite 上の『新英和中辞典』（研究社）、sanseido.net の『デイリーコンサイス英和』（三省堂）などのようにウェブサイト上で無料で引けるものもあるし、『英辞郎』（アルク）などのように有償でパソコンにインストールして使うものなどがある。後者は前者に比べて、インターネット接続回線の速度に関係なく安定したスピードで引け、接続がダウンした場合に使えなくなることもない。しかしどちらのタイプのものも、基本的にあらためて単語を入力する必要があるため、紙の辞書ほどではないにしろ、引くのに時間がかかり、読解のプロセスを阻害する傾向はある。これに対して、本稿で扱っているオンラインマルチメディア英和辞書では、スクリーン上で出くわした単語を選択するだけで引くことができるため、比較的問題が少ないと言える。

また、単語をあらためて入力するタイプの辞書では、せっかくその紙版で写真や絵の類が掲載されている場合でも、それらがそっくり脱落してしまっている。この点では電子辞書と同じである。写真や図表はその単語の理解に大いに役立つと思えばこそ、スペースに限りのある紙製の辞書でも採用されているのであるから、これらが脱落するのは決して好ましいこととは言えない。

このような理由があって、単語を改めて入力する必要がなく、画像が含まれたオンライン英和辞書が計画されたのである。普及促進のため無償と考えているので、開発のためには科学研究費等の資金的後ろ盾が必要であり、長期戦ということになっている。

### 4 オンラインマルチメディア辞書のコンテンツ

本稿で取り扱っている辞書のコンテンツだが、スクリーン上で引くことの特性からして、他の辞書にない特性が望まれる。

まず、紙の辞書と異なり、掲載する情報量を厳しく制限する必要がないので、扱う見出しの数を絞り込む必要はないし、ひとつの見出しの中での情報量を制限する必要もないと思われる。従って、テキストによる記述、音声と画像・動画をふんだんに供給することができるはずだと考えられる。

だがしかし一方では、読解のプロセスをなるべく阻害しないように、必要な情報に短い時間で達することができることが望ましい。そうすると、ひとつの語彙項目についてあまりに多くの情報が詰め込まれていると、目指す情報に到達するまで時間が余計にかかってしまうという側面もある。

ということは、素早い理解に達することを阻害する記載内容は精選し、迅速な理解を促進するものは掲載するという方針が適切であろうということになる。この基準に照らし合わせてみると、テキスト情報は少ない方がよさそうである。というのは、ひとつの見出し語に対して、候補となる語義がひとつのウィンドウで見渡せた方が、ひとつひとつの語義に最大限の情報を詰め込むよりは、素早く語義を割り出せるからである。

しかし、音声や画像や動画といったマルチメディア辞書ならではの要素は、逆に採用・増強が望ましい。テキスト情報だけでは、文字を通しての理解しかできないが、音声や画像や動画があれば、ものごとを直感的に理解することができ、より素早く正確な理解へとつながるものと思われる。例えば、roundabout がどんなものであるかの文字による説明を読んで、わずかに日本で見られるものを頼りに想像しても、英国のものとはかなり違っているため、正確な理解は得られないかもしれない。また、地下鉄が英国では tube とも言うこと理由は、トンネル断面と車両断面の形状が円形に近くて類似しており、隙間が少ないことからして、管の中をものが流れるのに似ているからだが、そのことはトンネルから駅へ先頭車両が出てくる画像を示せば一目瞭然なのであるが、文章で説明されてもどうということなのかピンとは来にくい。

では実際に本稿で扱っている辞書の場合はどうかという、まず、テキストによる説明部分はかなり簡潔なものになっている。もとにしているのがフリーのオンライン辞書であり、そもそも短めの記述となっている。品詞や語義、ある程度の例文だけのシンプルな内容となっている。これに『『大学英語教育学会基本語リスト』に基づく JACET8000英単語』（編集代表：相澤一美・石川慎一郎・村田年、桐原書店）に掲載されている語彙の重要度ランクと例文・例句（和訳付）を転載することになっている（もちろん大学英語教育学会と出版元の許可を得て、相当の対価を支払った上でのことである）。しかしそれ以上のマルチメディア的な要素は全くない。そこで本稿の支えになっている科研費による研究では、見出し語に音声が付与し、語義に見合う画像を部分的に付加、そしてできることなら動作を表す語彙に動画を添付したいと考えている。平成19年度で音声の録音、画像の収集は終了できる見込みであるが、実際に辞書に掲載して使用可能な状態に一応なるのは、早くとも科研期間終了時点の平成20年度末となる。

本稿では、ここまでのところで、画像掲載の経緯についてはっきりさせ、目的の半分を達した。次節では、本稿で扱っているマルチメディア辞書にどのような画像を掲載することが望ましいかを考察する。

## 5 他辞書の画像選択の基準

他の辞書ではどのような画像が掲載されているのかをまず踏まえることとした。そこに見られる選択の方針を参考にしようと考えたからである。但し調査時間の制約等の諸事情のため、実際に調査した辞書類は最新の版とは限らない。しかしここでの目的は時代に関係なく画像掲載に関する方針を参考にすることであって、それぞれの辞書の現況について評価を試みるものでないため、大きな問題とは考えていない。

まず、全く写真、絵、図表の類のない辞書も少なからずある。例えば、限られたスペースになるべく多数の語彙を掲載することを目的とした『リーダーズ英和辞典』（初版：研究社）や『グランドコンサイス英和辞典』（初版：研究社）などを挙げることができる。英英辞典にも、*Collins Cobuild English Dictionary (new edition)*, *Concise Oxford English Dictionary (11<sup>th</sup> edition)* などのように、ほとんど画像が掲載されていないものが多い。

次に学習用辞書であるが、理解を助けるため、他の種類の辞典よりもはるかに多くの画像を使用している。サンプルとして『ライトハウス英和辞典』（初版：研究社）を見たが、次のように分類できるように思われる。\*は写真、無印はイラストを表す。1枚の画像の細部に多くの関連語彙が含まれている場合は、1枚の画像に1つの語彙という形で挙げている。例えば航空機のイラストでは部品の語彙を省略して、全体で1枚と数えている。さらに、下位分類があるときも同様である。例えば dog の見出しのところにブルドッグその他の複数の品種のイラストがあっても1枚と数え

ている。また英米で異なる用語となる場合は紙面節約のため米語のみ掲載している。従って語彙数や画像の枚数としては実態よりもやや少なめになっているが、目安にはなろう。( )内は画像枚数を表す。全部で889枚、うち写真222枚、イラストは667枚となっている。

- ・位置関係 (21) above, along, among, around, at, bring, by, focus, in, line, off, on, onto, out of, over, row, span, tallies, through, to, underneath
- ・動物 (99) albatross, antelope, badger, bald eagle, beaver, bee/hornet/wasp, bison, bluebird, buffalo, Bactrian camel/dromedary, cardinal bird, cat, condor, \*coyote, crane, crocodile/alligator, crow/raven/rook, cuckoo, dog, \*donkey, dragon, duck/goose/swan, eagle, eggs, \*emu, ermine, ferret, fins, \*flamingo, hawk, \*frilled lizard, \*gazelle, goat, goldfinch, \*gopher, grasshopper, grouse, hamster, hare/rabbit, hedgehog, horse, hummingbirds, jackal, jaguar, kingfisher, kiwi, \*koala, llama, lobster, lynx, magpie, mink, mockingbird, \*moose, mouse/rat, mule, nautilus, nightingale, rat, opossums, otter, owl, \*parakeets, \*pony, quail, \*raccoon, reindeer, \*robin, salamander, scallop, scorpion, skylark, sloth, stork, swordfish, thrush, turkey, unicorn, vole, vulture, wallabies, \*wapiti, wildcat, wolf, \*wolverine, \*wombat, woodchuck, woodpecker, wren
- ・植物 (81) almond, apricot, arbutus, artichoke, blackberry, buttercup, cacao, \*cactus, California poppy, clover, \*coffee, \*cotton, cowslip, crocus, daffodil, daisies, dogwood, edelweiss, eggplant, elm, \*fern, fir, forget-me-not, gladiolus, gooseberry, \*grapefruits, gum, hawthorn, heath, hemp, hibiscus, holly, huckleberry, jasmine, \*kiwi fruit, laurel, lavender, lemons, limes, lilac, lily of the valley, magnolia, mangrove, maple, mistletoe, narcissus, oak, olive, onion, \*pansy, papyrus, \*partridge, peanut, pears, pink, plums, poppy, quinces, radish, raspberry, \*redwood, reed, ricer, rifle, \*saintpaulia, shamrock, snowdrop, squashes, sugarcanes, sycamore, thistle, tree, vine, violet, walnut, watermelon, \*wattle, barley/oats/rye/wheat, yew
- ・交通 (59) airplane and airport, airship, anchor, baby carriage, berths, bicycle, biplane, \*cable car, \*canoe, car, catamarans, clipper, cloverleaf, compartment, \*dinghy, \*double-decker, gangplank, \*gondola, \*Greyhound, \*hairpin curve, hitchhiking, \*houseboat, \*Hovercraft, \*hydrofoil, \*lightship, lock, locomotive, \*monorail, \*motorcycle, \*motor home, paddle steamer, pennants, \*prairie schooner, ramp, \*rickshaw, \*sailing ship, schooner, scull, seaplane, semaphore, \*showboat, sled, \*sledge, sleigh, \*snowmobile, \*speed limit, square rigger, stagecoach, sternwheeler, \*stroller, \*submarine, \*tandem bicycle, \*timetable, trolley, van, wagon, \*yacht, \*yield, \*zebra crossing
- ・道具 (154) anvil, armor, attaché case, ax, balance, bar code, basin, bolster, boomerangs, bowl, brace and bit, briefcase, brooms, carousel, carryall, casserole, chafing dish, chopper, churn, clasps, \*combine, compass, \*cowbell, cradle, crane, cranks, cup, cutting boards, dagger, decanter, derringer, dial, dishes, eggbeater, eggcups, ewer, file, fingerbowl, flaps, fork, \*gavel, gimlet, glasses, goblet, grandfather clock, gridiron, \*gyrocompass, harness, \*harvester, hasp, hod, hoe, hooks, hourglass, ice-cream scoop, jars, jug, knives, lamp, \*lance, lantern, latch, lawn mower, links, masks, mattocks, mops, mug, napkin ring, noose, nozzles, nut, nutcracker, pan, percolator, periscope, piggybank, pince-nez, pitcher, plane, plates, porringer, pot, potato masher, purse, quill pen, rack, radiator, rakes, rapier, reamer, reels, revolver, saddle, sauceboat, saucepan, saw, scarecrow, scepter, screws, screw tops, scythe, sickles, shackles, shears, shield, skimmers, slices, slings, wallet, spades, spit, spool, spoons, springs, spur, staples, stile, \*stilts, suitcase, swords, tackle, tankards, \*tea cozy, tea

- wagon, telephone, telescoping, terrarium, thimble, toby, tomahawk, tongs, \*torch, tractor, traps, trowels, trunk, T square, tumbler, turnstile, urn, vegetable parer, waffle iron, weathercock, wedge, wheel, whisks, wicket, winch, worm, worm gear, wrenches, yoke
- 動作 (68) with arms akimbo, cross one's ankles, give ... a bear hug, raise a hand to one's chest, throw one's chest out, lift one's chin, Come here., come, counting, cross oneself, curtsy, in disgust, knit/lower/raise one's eyebrows, cross one's fingers, give ... the finger, point a finger at ..., shake one's finger, hold out one's clenched fists, shake one's fist, \*rub one's forehead, gallop, good-bye, trot, hat in hand, hatchet, fling one's head back, clench/raise/spread/wring one's hands, put a hand to one's head, with one's hands on one's hips, impatience, cross one's legs, purse one's lips, Me?, put a hand to one's mouth, rub the back of one's neck, take an oath, put one's palm to one's cheek, pray, \*keep right, form a ring, salute, scratch one's head, shrug one's shoulders, smile/laugh/chuckle/grin/guffaw/cackle, soup, spanking, squint, stop, sweep one's hands, thinking, clutch one's throat, thrust one's head forward, raise one's thumb, turn one's thumb down, twiddle one's thumbs, tired, stick one's tongue out at ..., V-sign
  - 音楽 (18) alpenhorn, \*bagpipes, \*banjo, bugle, choir, cornet, \*fife, kettledrum, lute, \*marimba, \*orchestra, \*organ, sousaphone, trombone, trumpet, tuba, ukulele, xylophone
  - 絵画彫刻 (6) \*the Angelus, \*Mona Lisa, \*the Thinker, \*torso, \*the Birth of Venus, \*the Venus of Milo
  - 宗教 (37) \*Adam and Eve, angel, \*Apollo, Atlas, \*Bacchus, baptism, caduceus, centaur, church, cope, crosses, \*Cupid and Psyche, devil, \*Diana, Easter eggs, griffin, \*Hercules, \*Hermes, jack-o'-lantern, Janus, \*Jupiter, lectern, \*Madonna, \*Mercury, \*mosque, nimbus, \*nymphs, \*Orpheus, Pan, \*Pandora, \*pantheon, Pegasus, \*Perseus, \*Poseidon, pulpit, rosary, surplice
  - 建築 (69) aisle, alcove, attic, awning, balcony, bathroom, beam, bedroom, bridge, bungalow, \*canopy, \*cathedral, chalet, chimney, chimney corner, \*cloister, columns, \*court, cupola, derrick, dock, \*dome, door, driveway, \*façade, \*fire escape, flight, \*gable, \*gallery, gargoyle, grille, igloo, kitchen, knockers, labyrinth, lattice, lean-to, \*lodge, niche, obelisk, \*opera house, pagoda, panel, \*pavilion, pergola, pier, porch, portico, rafters, \*sentry box, \*setback, \*Indian shrine, stalls, \*steeple, stockade, Greek temple, \*tepee, terrace, theater, \*tombstones, totem pole, trellis, \*turret, \*United Nations, vaults, wigwam, windows, \*windmill, wing
  - 家具 (17) cabinets, couch, cupboard, deckchair, divan, fireplace, footstool, furniture, hearth, mailbox, \*post, rocking chair, stools, trestle table, log/lumber/board
  - 身体 (8) arm, back, castle, hand, head, leg, neck, nose
  - ひげ (6) beard, goatee, imperial, muttonchops, sideburns, Vandyke
  - 衣服 (37) ascot, \*bikini, bodice, bolero, bonnet, \*chaps, costume, coveralls, culottes, dressing gowns, epaulet, evening dress, \*flounce, gown, hoods, hoopskirt, jumper, kilt, kimono, nickerbockers, long johns, mittens, nightgown, \*overall, petticoat, pullover, raglan, robe, ruffle, \*sari, \*scarf, shirtwaist, smocks, tailcoats, tank top, toga, tuxedo
  - 帽子類 (12) \*bearskin, busby, caps, cocked hat, hat, mortarboard, tam-o'-shanter, \*ten-gallon hat, turban, veils, \*warbonnet, \*wig
  - 履物 (7) boots, moccasin, pump, sabot, shoe, snowshoes, sombrero
  - 食物 (26) beef, biscuit, \*breakfast, brownies, \*cafeteria, candy apples, cinnamon roll, compote,

- cookie, cupcake, \*dinner, egg noodle, fish-and-chips, fudge, hot, loaves, maple sugar, muffin, pancakes, pie, pretzels, \*pub, \*canned sardine, tacos, \*TV dinner, Yorkshire pudding
- ・図形 (2) bias, pyramid
  - ・職業 (3) \*blacksmith, \*newsboy, \*yeoman of the Guard
  - ・街中 (15) block, \*boardwalk, \*boulevard, \*bowl, drugstore, fingerpost, \*gravestone, \*guidepost, hotel, \*inn, \*motel, \*moving sidewalk, \*newsstand, pictographs, \*pillar-box
  - ・スポーツ (17) bobsled, catcher, darts, epee, \*golf cart, \*hang glider, \*hook, Indian clubs, leotard, racket, shuttlecock, \*skateboard, \*spinnaker, \*straight, \*tee, toboggan, \*uppercut
  - ・ファッション・美術 (19) Afro, cameo, diaper, frets, Jolly Roger, \*kayak, lei, locket, mobile, \*patchwork, ponytail, \*profile, \*relief, \*Royal Crown, silhouette, \*spinning wheel, spread eagle, tiara, \*wreaths
  - ・文化 (4) \*Bow bells, \*bridesmaids, \*floats, orange blossom
  - ・名所 (32) \*Big Ben, \*British Museum, \*Buckingham Palace, \*Capitol, \*Central Park, \*Colosseum, \*Empire State Building, \*Golden Gate Bridge, \*Grand Canyon, \*Hyde Park, \*Liberty Bell, \*Manhattan, \*Washington Monument, \*Niagara Falls, \*Oxford University, \*Houses of Parliament, \*Pentagon, \*Potomac, \*Pyramid, \*Mount Rushmore, \*Saint Francisco, \*Sphinx, \*Statue of Liberty, \*Stonehenge, \*St. Paul's, \*the Tower of London, \*Tower Bridge, \*Trafalgar Square, \*Wall Street, \*Westminster Abbey, \*White House, \*Yosemite
  - ・遊び (15) cat's cradle, checkerboard, chessboard, crossword puzzle, \*discotheque, \*kite, leapfrog, marbles, pogo stick, punt, sailboat, scooter, slingshot, \*slot machine, \*snowman
  - ・人物 (12) \*Charles 4, \*David 2, Dracula, \*Elizabeth II, \*Franklin, John Bull, \*Lincoln, Paul Bunyan, \*superman, Uncle Sam, \*Washington, \*women's liberationist
  - ・自然 (3) clouds, shadow, zones
  - ・地理 (11) aqueduct, \*fjord, \*geyser, international date line, \*Mount McKinley, Mercator projection, mesa, \*moat, mountain, \*swamp, viaduct
  - ・御伽話 (5) elf, fairies, gnome, Humpty Dumpty, witch
  - ・宇宙 (9) \*blast-off, \*Halley's Comet, \*launchpad, Orion, phases of the moon, planets, polestar, Scorpius, space station
  - ・その他 (17) coins, farmyard, gerrymander, haymaking, hemstitch, hieroglyphics, horoscope, \*life jackets, \*life raft, marionette, \*negative, \*positive, \*Oscar, \*passport, spectrum, sundial, zodiac

さて学習用辞典に関する上記の類別を観察してみると、いくつかの特徴がわかる。まず第1に、動植物、食物のように、日本で見られるものとは異なる特徴や分類を持つような一般名詞について画像が多く付されているようである。例えば、hare/rabbitは日本では「うさぎ」とひとくくりにしていて分類が異なる。また、「マフィン」と聞いて日本人が想像するものは様々だと思うが、画像があれば英語圏での平均的な姿がどんなものであるのか知ることができる。この他、交通関係などもこの範疇に入るであろう。例えば、「そり」と一口に言っても、英語では sled/sledge/sleighの区別がある。

次に、英米の名所と宗教におけるギリシアの神々のような固有名詞には、日本文化に対応物がなく、聞いたことはあっても全く想像のつかないもの、実際に見てみないとピンと来ないものも多い。例えば、テレビニュースなどで視覚的にはたびたび目に飛び込んでいるはずの White House がど

んな輪郭を持ち、Big Ben の時計がどのくらいの大きさで塔のどのあたりに位置するのかわかれるとよく思い出せなかったり、Jupiter や Hercules と言えば誰もが名前を知っていながら、彫像や絵画での姿形を思い浮かべることができなかつたりする。また食物、建築などの中にもこの範疇に入るものが多い。例えば fish and chips は日本では滅多に見ることがない。また terrace が家にあると言えば、日本では建物から張り出した屋根付きの露台を指すのに対し、英語圏では庭にある小段丘を指すことが多いであろう。

第3に、動作や位置関係のように、言葉で表すよりも、画像で示せば一目瞭然という範疇がありそうである。例えば、put a hand to one's head を英語圏で実行するとき、手のどのあたりを頭のどのあたりに置くのか、日本人がするのと同じでいいのかが、言葉による説明だけではわかりにくい。また、前置詞の示す位置関係については、画像によってまさに一目瞭然となる。

これらの多くは、画像が付加されていることによって大いに理解が助けられるものと思われる。姿形は別資料でいくらかでも調べられるものの、スクリーン上で文献を読み進めている中で引くオンライン辞書であるから、その場でわかった方がはるかに便利である。

反面、なぜ画像が採用されているのか明確な基準が想像できにくいものもある。例えば世界に名峰が数ある中でなぜマッキンリーだけに画像があり、また川や湖は採用されていないのか、なぜ12人の人物に肖像が付されている中でダビデ王が選ばれているのか、など、疑問が出てくる。この他、意外に選定の基準が想像しにくいのは道具である。かなり多くの画像が用いられているが、訳語だけで十分わかるものも多い。例えば knives とか lantern は、カタカナ書きから日本で想像する場合と特に違ったものを指すわけではない。衣服も同様の傾向があつて、nightgown, kimono, bikini などカタカナ書きして日本のものを想像しても差し支えない。

この他触れておきたいのは電子辞書である。もともになっている紙の辞書には画像があつても、その電子辞書版ではカットされているという点である。想像に過ぎないが、恐らく画面が小さいために、文字による説明部分と画像の共存を最初から諦めていたり、薄型軽量を競うために、電子的記憶容量を占領する画像を避けたりということがあるのかもしれない。また、画像を諦めれば、画面の液晶の質を高くする必要がないのかもしれない。

## 6 本辞書の画像選択の基準

どんな画像を選択するか基準自体にいくつかの種類がある。まず対象物（見出し語）をどのようなものにするのかということ、また画像の形式は実写なのかイラストなのかということ、そして画像の画質や大きさなどはどうするのかという点である。

まず画像の形式であるが、やはりなるべく実写が好ましいものと考えられる。次善の策としてイラストを採用するのは、著作権その他実写では問題がある場合、あるいは画像の中でポイントをわかりやすくするためには部分的に誇張して描く方が効果的である場合などが考えられる。またイラストの方が画像が軽くなるという面があるが、本辞書を使用するには一度に1枚しか呼び出さないのだから、画像ファイルを軽くする必要はそうない。よって本辞書では今のところ原則として写真を画像として選択する。

次に画像の画質や大きさである。まず画像の重さだが、一度に呼び出す画像は通常1枚になるであろうから、画像ファイル全体としての分量は特に問題にならないと思われ、画像ファイルを保存するサーバの容量さえあればよい。しかし、ユーザが画像を呼び出すときにあまりにファイルが重いと、スクリーン上で辞書を引くときに必要な画像が表示されるまでタイムラグが生じるという問題は起きうる。特にサーバから端末までの回線が細い場合は問題であろう。昨今のデジタルカメラ

の細密モードで撮影した画像の2MBといったサイズのファイルをそのまま置くのはさすがに重過ぎるであろう。

また画像の大きさについてはさらに制約がある。デジタルカメラで撮影したフルサイズの画像では、スクリーンに収まりきれないものが多い。本辞書はスクリーン上で英文を読んでいる際に引くのであるし、WebOCM上に搭載されるので、スクリーンには、読解中の英文とWebOCMのメニュー画面と辞書を引いた結果の少なくとも3つのウィンドウが同時に表示されなければならないから、画像の大きさはかなり制限される。しかも、出現した画像のウィンドウ（テキスト情報も同時に表示される）をさらにドラッグしてウィンドウの配置を調整する必要がないことも望ましく、そうなると画像の大きさは、恐らく現実的には、本辞書を引いた結果として表示されるテキスト情報のウィンドウの横幅（320ピクセル）に合わせてCSSより制御することが望ましい。それでも何が表示されているのか認識するのに必要最低限の大きさは確保しなければならないであろうから、画像拡大表示機能を付加するのも望ましい。

なお、縦方向の画像の長さに関しては、横幅ほどには問題にならない。設計では、画像が付されている語を検索した場合、見出し語とその発音記号の次に画像が来るように配置する予定なので、辞書を引いた結果を表示するウィンドウの上部に画像が現れるわけで、大抵の画像は縦長のウィンドウ内にCSSで制御してもうまく表示されるものと考えられる。

ここまでの考察を踏まえれば、画質については自明であろう。何の画像であるかがわかる程度の画質があれば十分で、あまり良くすればファイルが重すぎることになるということである。

最後に、対象物をどう選定するかという点であるが、前節で見た『ライトハウス英和辞典』の例を参考にすると、まずは、「日本で見られるものとは異なる特徴や分類を持つもの」「日本文化に対応物がなく、聞いたことはあっても全く想像のつかないもの、実際に見てみないとピンと来ないもの」「言葉で表すよりも画像で示せば一目瞭然であるもの」ということになろう。

しかし本稿で扱っているのはオンライン辞書であり、紙面の制約をあまり考える必要がない。この量的差異は、掲載される画像の質的差異をももたらさう。つまり、画像枚数を格段に増やすことが可能だということになれば、上記のような、わかりにくいものをわかりやすくするための画像だけではなく、十分知っていると思われるものにも画像を付すことができる。もちろんその場合でも、やみくもに画像を掲載しようとするわけではない。例えば、zebraについての説明文を読んでいるときに、足の部分も縦に縞が入っているのか横になっているのかという英語の説明文に出くわしたとすると、画像で確認し、知識をさらに深めることができる。また、『嵐が丘』を読んでいるときに、ヒースがだいたいどんな花か知っていても、画像を見てイメージを得つつ読み進めていけば、よりビビッドに鑑賞することができよう。このように、常識として知っていそうなものでも積極的に画像を掲載すべきであると考え。前節で『ライトハウス英和辞典』がなぜ山の中でマッキンリーだけに画像を付しているのかという疑問点を挙げたが、編者たちができればいろいろと画像を付したいと考えたであろうことが容易に想像できる。

もっとも、画像を付しうるものすべてに画像をつけるという方針は採らない。本稿を支えた科研費では担当者はわずか3名であり、wikipediaのようにあらゆる人々がよってたかって作り上げるわけではないので、おのずと限界があるし、研究期間で全てを終えようというわけでもなく、当面公開して使用していただいてもよいような形にすることが目標となる。

このようなことを考えた上で、本稿で扱っているオンライン辞書では、概ね以下のような画像の掲載を考えている（最終決定ではない）が、それぞれ画像がなくても十分意味を了解できるようなものも多く含むことになる。ここでの分類ははっきりしたものではなく、(1)の中に(2)、(2)の

中に (1) に含まれるべき語彙も含まれている。

1) 「日本で見られるものとは異なる特徴や分類を持つもの」

動物、植物、交通、街の風景、家具、食品、包み

2) 「日本文化に対応物がなく、聞いたことはあっても全く想像のつかないもの、実際に見てみないとピンと来ないもの」

地形・地理、スポーツ、英国名所、遊び

3) 「言葉で表すよりも画像で示せば一目瞭然であるもの」

旗、衣服、事務具、台所用品、音楽、道具、天体、人体

これらの分類に加えるものは少なからずあると思われるが、労力的制約のため、残念ながら種類を無制限に増やすことはできない。『ライトハウス英和辞典』に採用されているものを参考に採用を予定しているが、いくつか独自のものを盛り込んだ。

例えば「包み」は、bunch、bundle、pack、package、packet、parcel の典型的な姿を示すことで差異を直感的に理解してもらおうという狙いである。また「英国名所」については、筆者が英国を訪問する機会を活用したものであり、将来米国その他にも拡大することが望ましい。もし上記の項目群が最終的なプロダクトの形であるとすれば、名所が英国に限定されているのはいかにもバランスを欠くが、オンライン辞書はデータを更新するのが容易であり、特に本稿で扱っているものは利用が無料なため、手続き的にも面倒がない。従って、現行では多少バランスが悪くても、それだからと言って未掲載が望ましいということにはならない。

## 7 おわりに

本稿では、WebOCM に搭載しているオンライン英和辞書に付加する画像の選択にあたって行った考察をまとめた。なお、本稿執筆時点では、画像を付す語彙の具体的選択を示す段階にはなかったことをお断りする。本稿が読者の何らかの形でお役に立つものとなっていれば幸いである。なお、本稿をまとめるにあたり、東北大学の杉浦謙介准教授に情報提供を受けた。記して感謝したい。